

ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 119

～三木町の 偉人が育つ その文化～

<http://pianomed-mr.jp/>

徳島県と香川県は隣接しているが、生活習慣までも似通っている。ラーメンやうどんの生産地であり、米飯と重ねて食する。野菜摂取量が少なく、マイカーでdoor to doorの生活だ。両県とも糖尿病が非常に多い。車で香川道を走り三木ICで降りると、アイスアリーナが。ここで私は練習を重ね、42歳から冬期国体に5年出場した。施設や関係者のお陰である。

このたび三木町で講演をする機会があり、先人らの業績を知った。今回はこれらの話題に触れたい。

スポーツクラブ

会場の三木町総合運動公園を訪れ、その規模に驚いた(図1)。ここでは、さぬき三木スポーツクラブが数多くのプログラムを実践している(代表藤本昭三氏)。お世話役の村上充氏は香川マスターズ陸上の選手で指導者でもあり、かつて100mを10秒代で走り、未経験の大学生を指導して10・4秒が出たほどだ。



図1

また、スポーツ医学にも精通され、私の短距離走にも助言下さり、私は次大会に向けて意欲的に取り組んでいる。講演会では、メタボ・ロコモ・スポーツの話題を提供させて頂いた(図2)。

希少糖は三木町から

香川大学が大量生産の技術開発をした「希少糖」は、三木町で生まれ培われてきたと知り、糖質制限に携わっている私としては、興味深々であった。

希少糖とは自然界に微量にしか存在しない単糖だ。単糖↓蛋白質↓DNA研究に発展し、生命機能の解明や応用に繋がる(図3)。

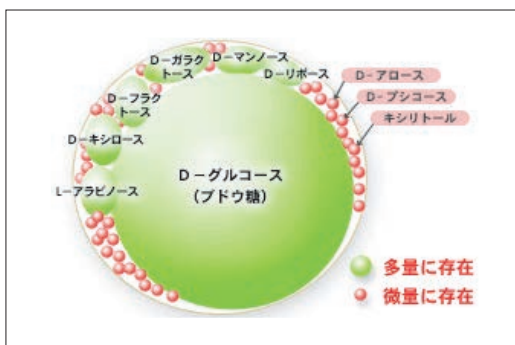


図3



図2

「三木町希少糖研究研修センター」は世界有数の規模を誇る生産設備と科学を



図4

日本の三大老農

希少糖の誕生には、先人達による偉業の歴史が関わる。三木町出身の2人の偉人を紹介したいと思う。

江戸時代末期、三木町に奈良専二が誕生した(1822-1892、図5)。百姓の仕事は過酷で収穫が



図5

不安定であり、八歳の専二が猫車（現在の一輪車の原形、図6）を考案。幼少のころから「農をもつて国を興す」という大志を抱き、農村を豊かにする研究を続け、稲種の選抜改良（奈良稲）、コロ馬鋤、自動防犯警鐘器などを創作した。

多数の研究を出版し、国

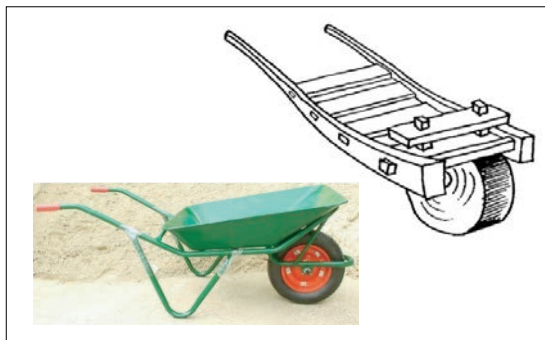


図6

メタセコイアの博士

を代表する「明治の三大老農」と評価されることに。内国勧業博覧会を度々受賞し、永年の功績に緑綬褒章や、没後32年後にも従五位を受け、素晴らしい先覚者であった。

図1の右上をご覧ください。きたい。かつて山太寺池の改修工事では、奈良専二が石洞開削工法を提言し指導したことがあった。

山太寺池に隣接して太古の森があり、植物のメタセコイアが2700本も植えられている。（図7、8）。なぜだろうか？



図7



図8

明治34年のこと、三木町に三木茂博士（1901（1974））が生まれた（図9）。茂は植物の採集と観察が大好きで、木田農林学校（現在の香川大学農学部）に進学。その後、石川県立農林学校の教諭を経て、京都帝国大学で研究に没頭。昭和14（1939）年に新種の植物を発見し、「メタセコイア」と命名し、学会誌で発表した。6年後、中国湖北省の奥地で原木が発見され、国際的に認められることに。

その後、原木から採取された種を発芽させ、最初の苗木が昭和24年天皇に献上された。吹上御殿に植えられたものが日本での植樹第一号である。天皇陛下にご進講もなされた。

氏は3大学の教授を務め、論文109編、液浸標本



図9

なお、平成22（2010）年、国立科学博物館からプレスリリースがあった。「昭和天皇とメタセコイア」化石発見から70年」の展示についてである（図10）。



図10

その中で、天皇がことのほかメタセコイアを好まれた逸話が知られる。天皇が御出席になった最後の歌会始で詠まれた歌を紹介しよう。「我が国のたちなほり来し年々に あけぼのすぎの木はのびにけり」と。

優れた医学教育文化

以上、三木町の優れた歴史や研究を紹介した。他に、三木町の松原医師が小学生に対する糖尿病チェックを日本で先駆けて開始したエピソードもある。三木町には、人のために尽くす哲学と文化が伝わってきているような気がする。

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）